

ナス



育苗

茎葉より根を強くし、徒長させず、硬くしまった苗作りをする
(水をやりすぎないように)

- 根っ酵素・花咲くCa液各500倍(幼苗1000倍)を葉上からタップリ散布。
- ※本葉展開後、接木後4日間を除いて、4日ごと交互散布する。とくに移植3日前にはCa液でガッチリ充実させる。

(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法												
地力作り	なるべく早く(定植1ヶ月前までに)、右記の資材を同時に投入し、なるべく深く耕す ※深耕して、通気性・保水性・保肥性にすぐれた深い地力を作り、深根をしっかりと働かせる	<ul style="list-style-type: none"> ●ラクトバチルス600g ●堆肥肥2トン以上(なるべく多く) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>硫安</th> <th>畑の大将<青></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハウス長期栽培(促成・半促成)</td> <td>120kg</td> <td>80kg</td> </tr> <tr> <td>露地栽培(長期)~元肥栽培・長ナス</td> <td>80kg~160kg</td> <td>60kg~140kg</td> </tr> <tr> <td>短期・追肥栽培</td> <td>60kg</td> <td>40~60kg</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ナスのように多チッソの作物は 土壌酸性の中和に注意!深層のpHまで測定してカルシウム量を増減する。 経験上、ナスの好適土壌pHは通常の作物同様に作付け前:6.0~6.5、栽培中:5.5~6.3。(追肥で酸性中和が出来ない前提の農法では6.5~7.5が好適とされるが、それでは高pHで徒長しやすくなる)</p>		硫安	畑の大将<青>	ハウス長期栽培(促成・半促成)	120kg	80kg	露地栽培(長期)~元肥栽培・長ナス	80kg~160kg	60kg~140kg	短期・追肥栽培	60kg	40~60kg
	硫安	畑の大将<青>												
ハウス長期栽培(促成・半促成)	120kg	80kg												
露地栽培(長期)~元肥栽培・長ナス	80kg~160kg	60kg~140kg												
短期・追肥栽培	60kg	40~60kg												
整地・ウネ作り時	全面またはウネ上に散布	<ul style="list-style-type: none"> ●畑の大将<青> 20kg →初期の開花・結実促進 ※特に土壌病害・青枯れが心配な圃場では、マンゾク粒状50kgを追加。 												
特に推奨する調節	定植時(ドブ漬け、及び予め植え穴に灌水し土深く迄湿らせる) 1ヶ月間の灌水 (チッソを使わずEC:0.2以下に以降は、月ごと、または半月ごとに定期灌水・散布を)	<ul style="list-style-type: none"> ●根っ酵素2~5ℓを灌水(葉にかかるなら500倍) ※定植直後以降はなるべく灌水せず、やや萎れても(深く伸びる根の力で)夕方回復する程度で、活着・生長させる。 <p>※灌水の場合、酵素液混合で水をタップリと土の深層まで染込ませる。《少回数・多量の灌水で深い根を》 ※2~3本に仕立て、他の側枝を切取ったら、酵素液の灌水と、Ca液の葉面散布とを行い、栄養バランスを保持。</p>												
	花が多くなる前から葉面散布(以降、7~14日ごと定期散布)	<ul style="list-style-type: none"> ●花咲くCa液500倍を葉面散布 ※もしチッソ過多・カビ頻発の場合 2~10ℓ 灌水。 												
	着果数が増えたら (成り疲れ前に、遅れないで・以降、半月ないし月ごと定期灌水)	<ul style="list-style-type: none"> ●根っ酵素2~10ℓを灌水 ※果実を肥大させながら、着果負担より更に強壯な根の力で、草勢を維持し、花着きを持続させ、生育の波を無くす。 												
灌水・灌注葉面散布 ※もしチッソ肥料がほしい場合は、追肥かアミノ酸液を	通常は収穫継続中 月1回 (状態によって適宜増量) ※元肥の多肥栽培では、もしチッソが切れた場合のみ、硫安施用	<ul style="list-style-type: none"> ●硫安30kg(根が強くて葉色薄い時に) ●畑の大将<青> 30kg~60kg ※少なくとも月1度、なるべく深層までアチコチの土壌pHを測定し、pH:5.5以下の酸性にならないように適宜、畑のカルシウムを施用。《最重要!》 ※もし生長が萎縮し、花色薄く、着果が悪く、カビが蔓延したら、土壌が酸性になっていないか調べ、酸性なら直ちに 畑の大将<青>をウネ上・ウネ肩・通路に追肥して回復させる。(酸性でなければ酵素液灌水) ※持続的に根を強く働かせ草勢を強く保つには、マンゾク粒状30kg追加。 												